

誰一人取り残さない

東日本大震災から10年・コロナ禍の今こそ!

# ジェンダーの視点で考える 防災

前期講座 全8回  
受講無料  
託児あり

2011年東日本大震災、2016年熊本地震、2018年西日本豪雨災害、2019年大阪北部地震、そして2020年令和2年豪雨災害と私たちはいつ被災者になってもおかしくない世界に生きています。災害後に発生してからの対応を考えていては間に合わないことが多くあります。ジェンダーもそのひとつです。日々のジェンダー観が災害時にどうつながるのかを考えます。

「さんか岡山」・岡山市危機管理室 共催

## 1 なぜ必要？ 災害とジェンダー基礎知識

7月17日(土) 10時30分～12時

講師 斉藤容子さん(関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・准教授)

### ■斉藤さんからのメッセージ■

災害とジェンダー?なんとなく必要性はわかるような気はするけど具体的に「何?」と聞かれたら答えられないという方も多いのではないのでしょうか。ジェンダーは男性・女性両方に関わる問題であり決して女性だけの問題や女性だけで解決する問題でもありません。災害対応のキーワードは「コミュニティ」です。その一員として事前に何を考えておかなければならないのか一緒に考えてみませんか。



## 2 東日本大震災から10年 防災・復興政策にジェンダー視点はどこまで反映されたのか? —国際動向も視野に入れて—

7月24日(土) 13時30分～15時

講師 池田恵子さん(減災と男女共同参画研修推進センター共同代表/静岡大学教育学部・同防災総合センター教授)

### ■池田さんからのメッセージ■

度重なる災害経験から、防災・復興におけるジェンダー視点の重要性が知られるようになってきました。男女がともに担い、性別によって異なる被災経験や支援ニーズに応じた備えと対応ができるかどうかは、命にかかわる問題です。しかし、当たり前のように男性中心で担ってきたスタイルを変えるのは簡単ではありません。政策に取り入れられても現場まで浸透するために乗り越えるべき課題もあります。国内外の事例も紹介しつつ、一歩前へ進めるために何が必要か、一緒に考えたいと思います。



## 3 災害時における子どもの保護と子どもが果たした役割 —2018年西日本豪雨の経験から—

8月7日(土) 13時30分～15時

講師 山田心健さん(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン国内事業部国内緊急対応事業プログラムオフィサー)

### ■山田さんからのメッセージ■

災害後の緊急支援対応は、子どもが非日常的な生活から少しでも早く日常を取り戻すことができるよう、子どもにあわせた活動が必要とされています。そして、子どもを中心とした支援活動は子どもたちと共に考え、実施することが大切です。本講座では、2018年の西日本豪雨支援活動の中で、実際に子どもたちが果たした役割を紹介しながら、今後起こり得る大規模な災害に備え、子どもを中心とした支援活動と防災について、私たちができることを考えていきたいと思っています。



# 4

## 災害時の複合差別とその解消に向けてー障害のある女性の困難から考えるー

8月21日(土) 13時30分～15時

講師 藤原久美子さん (DPI 女性障害者ネットワーク代表)

### ■藤原さんからのメッセージ■

女性であり障害者であることで、困難が複雑に絡み合い、増幅していくのが、障害のある女性の複合差別です。そして災害は、脆弱な立場の人たちをより困難にします。しかし、適切な支援があることで、その人が本来持っている力を取り戻すことができます。ただ助けられるだけの人はいません。まずは障害のある女性について知り、理解者として寄り添って下さい。そこから、「誰も取り残さない防災」について共に考えていきましょう。



# 5

## なぜ災害時に性暴力が起こるのかー性暴力をゼロにするために私たちができることー

9月4日(土) 13時30分～15時

講師 中野宏美さん (特定非営利活動法人しあわせなみだ理事長)

### ■中野さんからのメッセージ■

「災害時の性暴力」というと、「まさか」と、驚いてしまいますよね。災害や感染症の拡大等、社会不安が高まる時には、性暴力が起こるリスクが高まる可能性が指摘されています。こうした状況を明らかにし、改善への取組へとつなげたのは、被災を経験された方や、日頃性暴力被害者支援に携わる人々からの発信でした。「平時だからこそできること」を見つめ直し、安全安心のまちづくりを、一歩前に進めましょう。



# 6

## 地域の災害対応力を高めるジェンダー視点ー各地の取り組みから考える新しい時代の地域防災活動とは？ー

9月18日(土) 13時30分～15時

講師 浅野幸子さん (減災と男女共同参画研習推進センター共同代表  
／早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員)

### ■浅野さんからのメッセージ■

災害直後の避難行動から中長期的な避難生活にいたる助け合い活動の質の向上はもちろん、行政やボランティアの支援とうまく繋がるための地域の受援力を高める上でのジェンダーの視点は不可欠となります。新しい時代にふさわしい防災活動のあり方について考えます。



# 7

## 岡山で大災害が起きたら！！ー平時を含めた岡山市の動きと市民がすべきことは？ー

10月2日(土) 10時00分～10時50分

講師 岡山市危機管理室／岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」

# 8

## みんなで話そう！誰一人取り残さないジェンダーの視点で考える防災とは？

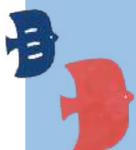
10月2日(土) 11時00分～12時30分

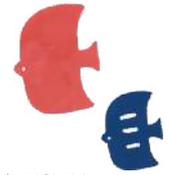
ゲストスピーカー 服部育代さん (一般社団法人はっと岡山代表理事)



### ■服部さんからのメッセージ■

私も避難を経験した当事者です。もう10年、まだ10年。避難者の様子は個別多様ですが、特に女性たちからの苦しみ、葛藤をたくさん聞いてきました。避難が契機となってはいますが、日本社会に根深くあるジェンダーに由来するものを感じました。当事者自身が個人の問題と捉えてしまうことで社会に潜むジェンダー問題も見えにくい。災害はそれが顕在化する機会になっているのかもしれない。「実はね」と本音が言える、安心して弱音が吐ける社会になってほしいです。一緒に「ほんとはね」を大事に、これらの問題を見つめましょう。





●第1回 斉藤容子 (さいとう・ようこ) さん●

関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・准教授  
 大学卒業後、(特活) CODE 海外災害援助市民センターにて海外の被災地での復興支援(アフガニスタン、イラン、スリランカ等)にあたる。2005年イギリス・ノーザンプリア大学災害と持続可能な開発コース理学修士課程を修了後、国際連合地域開発センター(UNCRD)防災計画兵庫事務所研究員として勤める。2013年、関西学院大学総合政策研究科博士課程修了。2012年よりひょうご震災記念21世紀研究機構・人と防災未来センター主任研究員を経て現職。

●第2回 池田恵子 (いけだ・けいこ) さん●

減災と男女共同参画研修推進センター共同代表  
 静岡大学教育学部・同防災総合センター教授  
 青年海外協力隊、JICA(国際協力機構)技術協力専門家など国際協力の現場を経て、2000年より静岡大学教員。現在に至る。専門分野は社会地理学。性別や多様な立場の人々の視点に基づく防災体制づくりのための調査、研修、教材作成、研修できる人を増やす養成研修に力を入れている。自治会、自主防災組織、女性団体、災害ボランティア、各地の防災士会、行政職員などを対象に講座を多数実施。



●第3回 山田心健 (やまだ・むねたけ) さん●

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン国内事業部  
 国内緊急対応事業プログラムオフィサー  
 大学を卒業後、国際協力団体の活動に携わり、2011年セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに入局。当時岩手県に駐在し、東日本大震災緊急・復興支援事業に従事。その後、2016年熊本地震、2018年西日本豪雨、2019年九州北部大雨、同年台風19号への緊急・復興支援で被災地に派遣され、子ども支援の活動に携わる。現在は国内事業部の緊急対応事業として、緊急時の支援準備や防災に関わる活動を行っている。2020年、防災士の資格を取得。

●第4回 藤原久美子 (ふじわら・くみこ) さん●

DPI 女性障害者ネットワーク代表  
 十代の時にI型糖尿病を発症し、35歳で合併症による網膜症で視覚障害者(弱視)となる。大阪ライトハウスで生活訓練を受けた後、自立生活センター神戸Beすけっとにボランティアとして関わり、ピアカウンセリング等を学ぶ。2004年に同センターのスタッフとなった。40歳で妊娠するも、障害を理由に中絶を勧められた体験から、DPI女性障害者ネットワークのメンバーとして政策提言や、国内外に情報発信するなど、障害女性の複合差別解消に取り組んでいる。2019年12月、日本の社会問題に草の根で取り組む女性リーダーに送られる「チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞」受賞。現職他、特定NPO法人DPI(障害者インターナショナル)日本会議常任委員、自立生活センター神戸Beすけっとピアカウンセラー/事務局長

●第5回 中野宏美 (なかの・ひろみ) さん●

特定非営利活動法人しあわせなみだ理事長  
 東洋大学大学院社会学研究科修了。社会福祉士。精神保健福祉士。  
 友人がDVに遭ったことをきっかけに、できることから始めようという決意。「2047年までに性暴力をゼロにする」ことを目指して、2009年「しあわせなみだ」を立ち上げる。2011年にNPO法人化。  
 2018年AERA「生きづらさを仕事に変えた社会起業家54人」に選出。  
 主な著書に「多様な働きかけによる世論喚起と現実的な要求で刑法改正を実現した実践」(公益社団法人日本社会福祉士会編集『地域共生社会に向けたソーシャルワーク 社会福祉士による実践事例から』,2018)論文に「災害時の性暴力～見えないリスクを可視化する～」(自治体危機管理研,2016)等。



●第6回 浅野幸子 (あさの・さちこ) さん●

減災と男女共同参画研修推進センター共同代表  
 早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員  
 阪神・淡路大震災ではボランティア団体スタッフとして4年間、現地で避難者支援、復興まちづくり支援に従事。その後、東日本大震災女性支援ネットワーク運営委員会を経て、現職。大学の非常勤講師、各地での防災講演・研修を行うほか、国や自治体の防災政策にも関わる。専門は地域防災。

●第8回 服部育代 (はっとり・いくよ) さん●

一般社団法人はっと岡山代表理事  
 「ジェンダー視点から考える広域・長期避難者支援ネットワーク」メンバー  
 第1子出産後、東京にて子育て支援NPOに関わる中、母と子の防災啓発をテーマとした書籍の制作に関わる。2011年東日本大震災・原発事故をきっかけに岡山県へ移住。2014年、岡山市に支援拠点を設け、広域避難者支援に本格的に携わる。避難者支援から見てきた課題を、災害前の平時からいかしていくために、防災・減災講座なども並行して始める。本職はグラフィックデザイナー。栃木県生まれ。



後期講座(パネル等作成ワークショップ)のご案内



前期講座(講義)の出席が4分の3(6回)以上の方は、希望により後期講座へ進むことができます。  
 後期講座では、前期講座で学んだことをもとに、「これは絶対みんなに伝えたい!」と思うことを啓発パネル等にまとめていくワークショップです。応募方法は改めてご案内いたします。

日時	内容	講師等
10月23日(土) 13時~16時	パネルに何をとり上げるのか?必要な視点は? 受講者と事務局での打ち合わせ	斉藤容子さん 事務局
11月(後日調整)	作成作業	事務局
12月(後日調整)	経過指導	斉藤容子さん
1月(後日調整)	作成作業	事務局
3月5日(土) 13時30分~15時30分	パネル発表 & 講演会	後期講座受講者 斉藤容子さん

## 募集要項

■募集人数■30名 ■受講料■無料 ■対象■内容に関心のある人。なるべく全8回出席できる人。

■会場■岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」

■託児■あり・無料・定員5名・生後6か月～就学前

全8回通してお申込みの受講者を優先して、託児を受付けます。

受講申込書の託児欄に必要事項をご記入の上、お申し込みください。託児の可否は後程ご連絡いたします。

■申込方法■受講申込書(下記)に必要事項を記入し、郵送、FAX、E-mail、持参もしくはこちらから

7月7日(水)までに「さんかく岡山」へお申し込みください。

申込者多数の場合は抽選により受講者を決定いたします。

ただし、全回出席できる方を優先します。※申込書をご確認ください。

受講の決定については7月8日(木)以降に郵送でご案内します。



■非常時対応等■原則、対面講義で予定していますが、自然災害、新型コロナウイルスの感染拡大の影響等により、

・遠隔講義(講師⇄「さんかく岡山」会議室をつなく形)になる可能性があります。

受講者のみなさんは、「さんかく岡山」へお越しください。

来場の際には、マスク着用、検温、消毒、換気、座席の配置等で感染防止対策を取りながらすすめますので、ご協力ください。

・また日程の変更、中止等も考えられますのでご了承ください。

## 申し込み・問い合わせ先

岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」  
〒700-0822 岡山市北区表町三丁目 14 番 1-201 号  
電話 086-803-3355  
ファクス 086-803-3344  
E-mail sankaku@city.okayama.lg.jp

申込み切  
7月7日(水)

きりとり線

### 令和3年度岡山市男女共同参画大学「さんかくカレッジ」専門コース 受講申込書

ふりがな			年代 (該当に○印)
氏名			20代以下・30代・40代 50代・60代・70代・80代以上
住所	〒 -		
連絡先	電話	ファックス	
	E-mail ※ある人は必ずご記入ください。変更・中止の連絡はE-mail 中心にいたします。		
学習経験	★該当するものがある場合は○印をつけてください(特に該当するものがなくても申込可能です)。 ・岡山市女性大学修了                      ・岡山市男女共同参画大学さんかくカレッジ(受講・基礎・専門)コース修了 ・その他( )                                      ・特になし		
申込動機・講座に期待することなど	※都合で欠席する回がある場合はお知らせください。		
託児	有・無	託児「有」の方 ■さんかく岡山託児室会員 No. (登録済みの方) _____ ■お子さん氏名 _____ 生年月日 _____ 年齢 _____	

この申込書から取得した個人情報は、「さんかく岡山」主催事業の運営に関する目的以外には利用いたしません。